



第26号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【日々学び成長するこどもの姿に感動・・・】

山々の木々が枯葉となり、冬の足跡が日増しに感じられる季節となりました。まちづくり奮闘記

も回を重ねること二十六年を数えますが、私の時間の都合で少し話題が季節とずれることがありますので、ご理解ください。

十月七日（土）に北斗市総合文化センターにおいて、渡島保育協議会設立四十五周年記念式典並びに記念講演会が開催され、来賓として参加をいたしました。なお、当日は、永年（三十年以上）保育士として勤務された方々への永年勤続表彰が行われ、福島保育所の職員も金澤園長他四名の職員が表彰を受けております。

また、記念講演では玉川大学の大豆生田啓友（おおまめうだ・ひろとも）教授の「いま、求められる保育の質」と題した講演があり、受講する機会をいただきました。

まず、驚いたのが先生

の名字「おおまめうだ」にビックリ、栃木県地方に多い名字だそうです。

教授は、講演の中で幼児期における保育の質の重要性を説いており、質の高い保育が、その後の子供の成長に大きな影響を与えることが明らかになっていっているとっております。

幸せな子供を育てる四つの因子（前野隆司）「やってみよう」（自己実現、自分が社会の役に立っている感）、「ありがとう」（愛されている実感、人に感謝し、親切にしたいという思い）、「なんとかなる」（楽観的、気持ちの切り替えができる）、「あなたらしく」（他者と自分を比べない、自分自身のことがわかり、自分を持つている）とあります。子供が自然とかかわって遊ぶ中で学び、試行錯誤することによって探究心が生まれ、気づきや発見に繋がるとしております。

一人ひとりの子供が、大人から丁寧に感じられ、肯定的に受け止められる経験をして保育された子供は、そうでない子供に比べて大人になってからの対応力に違いが出ると言っており、また、他の諸外国に比べて我が国の子供にかかる予算の少なさも指摘しております。

十月八日（日）に、第五十三回の福島中学校の学校祭が「百華祭宝」（溢れる才能で乱舞せよ）をテーマに開催されました。残念ながら最後まで見ることは叶いませんでしたが、全校生徒と一緒に楽しく一つの歌を熱唱していたのが印象的で、私たちの時代とずいぶん様変わりしていることに新たな感動を覚えました。

十月十四（日）に、福島小学校の学習発表会に参加させていただきました。

当日のスローガンは、「喜学想 伝える力」と題して一年生から六年生

まで、それぞれ音楽・劇を発表しておりました。

一年生は初めての体験、六年生は小学生で最後の発表会となりますが、一年生の成長の早さ、六年生の発表会を成功させようとする責任感の強さを感じてきました。

本日に日々学び成長する子供の姿に改めて感動いたしました。

また、ご指導いただいた先生方のご努力に感謝申し上げます。

毎年のことですが、十一月は全国町村長大会が東京で開催され、全国の首長さんが一同に会します。十一月は中央要望や全国大会などで首長が一番忙しい季節です。

地域のリーダーとして、日々弛まぬ精進に努め、人間性を磨くことが大切であり、「修己治人（しゅうこちじん）」己を修め人を治めることが大事です。